

令和2年度3学期終業式 式辞

令和3年3月23日

振り返れば令和2年度は、極めて特異で、とても厳しい1年でした。新型コロナウイルス・パンデミックの影響は、今を生きている人々が経験したものではありません。第二次世界大戦に次ぐほど大きなものであったように思います。

神戸高校でも、通常の学校生活すら送ることができない、極めて制約の多い一年間でした。少しでも神戸高校らしい学校生活を送るためには、沢山の知恵と創意工夫、そして強い意志と忍耐力が必要でした。そんな中で、卒業生も含めて皆さんは、本当によく頑張ってきたと思います。

来るべき新年度も、コロナ収束の気配は見え、まだまだ不透明です。しかし人類は無力ではありません。こんな状況を打破すべく取り組む研究者も多くいます。

例えば、初めてインフルエンザウイルスの人工合成に成功するなどして、ウイルス学の世界的権威とされる研究者のことを知っていますか。本校26回生の河岡義裕博士です。河岡さんは、昨年、テレビ番組「情熱大陸」にも出演されていますが、その中で、コロナウイルス感染拡大について、こんなことを言っておられます。

「危機的状況ではあるが、ちゃんとやれば、乗り越えられる。それを分かっているわれわれ研究者が、一般の人たちに、防ぎ方を分かってもらうようにするのが、使命だ。それにはすごく責任感があって、そのためにわれわれは存在していると思うから、やらないといけない。」本校の卒業生が、コロナウイルスワクチン開発研究の最前線で活躍されていることは、私たちにとって誇りであり大いに勇気づけられます。

さて、テレビの中で、番組のディレクターは、文字通り「世界を救ってきた男」河岡さんに、この研究の背景になった「信念」について尋ねました。河岡さんは、「やらないといけないことがあってそれを淡々とやってこなす。」と答えています。私たちも心すべきことだと思います。どのような状況にあっても、やらなければならないこと、やるべきことを淡々とやる。でもこれは極めて強い意志が必要です。

ところで、河岡さんは、一人だけで研究に没頭しているわけではありません。東京大学の河岡ラボと呼ばれる研究室のリーダーとして約30人もの研究者を指導し、研究室を運営・経営する。また、研究の成果を実現させるため企業への売り込みに行ったりもする。研究者として凄い人ですが、一人の人間、一人の社会人としての総合力も凄いと思いました。これは「校長室から」で紹介した「NHK BS1スペシャル『国産ワクチンを開発せよ 東大河岡ラボの300日』」を見て感じたことです。

話は変わりますが、昨年12月、1年9組の授業で科学倫理についての特別講義がありました。講師は、兵庫医療大学学長で本校34回生の藤岡宏幸博士です。先生は、「医師を目指すにしても、理系の勉強だけではなく文系の勉強もすることが大切だ。また、勉強

以外にも、神高は文武両道を目指しているが、そのような中でいろんな経験を積むことも必要だ。」とエールを送っていただきました。

神高生はこの神高で、先行きが見えない状況にあっても、自らの力で前へ進むことのできる、人としての総合力、即ち底力を培っていきます。

勉強も、部活動も、学校行事も、自治会活動も、河岡さんの言葉を借りれば、「やらないといけないこと」「やるべきこと」です。来年度がどんな状況であったとしても、総合力、底力を身につけるため、「やるべきこと」「やれること」をやる、充実した1年にしてほしいと願っています。最後に、皆さんに、皆さんの仲間の活躍を紹介します。

予餞会の時に授与した賞の1つ、井深杯に一人追加されました。上村祥一郎君（3-3）が、つい先日、科学地理オリンピック銀賞に輝いたことによるものです。

部活動関係では、かるた部の、阿部咲良さん（2-1）が、全国高校生かるたグランプリ近畿地区代表選手として選抜されました。

夏休み以降の作文関係でも、多くの方が活躍しています。

「全国産経高校生文化大賞」で、長尾莉奈さん（1-8）が佳作に選ばれました。

「『社会を明るくする運動』高校生エッセイコンテスト」では、森山博美さん（1-4）が兵庫県BBS連盟会長賞、岸本愛さん（1-9）が佳作に選ばれました。

「ひょうご新聞感想文コンクール」では、仲田和花さん（1-4）が優秀賞、北川あいさん（1-9）が入選となりました。

また、すでに予餞会で井深杯を授与しましたが、森谷鈴音（2-3）さんが「全国読書体験記コンクール」で全国応募作品約7万6千篇の中のベスト3に選ばれました。この入賞を讃え、主催者から本校に、「集英社文庫百冊セット」が贈られました。図書館受付前に全冊を並べています。

これらの多彩で優秀な活躍を喜び、受章者を讃えたいと思います。

では、皆さん、新年度の先行きはまだまだ不透明ですが、春の光溢れる4月、気力をしっかり充実させて再会しましょう。

新年度、新しい1年が皆さんにとって、充実した素晴らしい1年になることを祈って、式辞とします。